

KFC 帰国者新長田交流会

通信 1号

編集発行：(特非) 神戸定住外国人支援センター

〒653-0038 神戸市長田区若松町 4-4-10-502

TEL078-612-2402

FAX078-612-3052 <http://www.social-b.net/kfc>

発行日：2013年2月28日

「帰国者交流会」の大切さ - KFC 帰国者新長田交流会を始めて - KFC 理事長 金宣吉

KFC (NPO 法人神戸定住外国人支援センター) が、中国残留邦人帰国者とその家族の人たちと交流を始めたのは、今から3年前のマイノリティ高齢者調査に遡ります。

KFCは、阪神・淡路大震災直後から在日コリアン高齢者のサポートに取り組み、その活動から現在、グループホームという形でマイノリティの文化を尊重し受け入れる高齢者の入居施設まで運営できるようになっています。

その経験もあって、神戸に住むベトナム人や帰国者の人たちの状況を知ることの重要性を考え、在日コリアン、在日ベトナム人、中国残留邦人帰国者とその家族の人たちを対象に実施した聞き取り調査の結果は、帰国者の人たちの孤立の深刻さが浮かび上がるものでした。

戦争時の置き去りと戦後の無策、帰国後の不十分な援護策によって、日本での暮らしは帰国者の人たちにとって孤独と貧困を背負うものとなっていたのです。

私たちは、2011年の6月から私たちがらしいやり方で帰国者の人たちの居場所をつくろうと考え、「KFC 帰国者新長田交流会 (帰国者交流会)」を運営しています。日本と中国というハイブリッドな文化を持つ帰国者とその家族の人たちの楽しみとは、生きがいとは何かをできるだけ当事者の方たちと語り合う形で進めてきたつもりです。

その中から、太極拳、餃子の会、遠足、卓球、カード (トランプ)、ヤンコ (秧歌：ヤンガー) 踊りというようなレクリエーションを中心とした帰国者交流会をたくさんのボランティアの助力を得て運営できるようになりました。

現在毎週40名を越える帰国者の人たちが、帰国者交流会には集ってくれます。運営にも帰国者2世の人たちが積極的にボランティアで関わるようになってくれました。

帰国者の人たちが交流会の席で、大きな声で中国語を話し笑顔を見せてくれているのを見ると取り組みをはじめてよかったと実感します。そこにはわかりやすい「中国人」も「日本人」もいません。何国人を超えて人の歩みのなかで身に付けたものを出せる時間の大切さ、人のもつ権利、「人権」を感じられる空気を運営する側も分けてもらえている気がしています。

神戸では私たちのほかにも、学園都市、岡本・朝霧での帰国者支援がつけられています。他の団体の人たちとも協力しながらまたKFCだからできる「生活日本語学習」支援なども取り入れ、今後も帰国者交流会を続けていく所存です。これからもよろしくお願いします。

中国残留邦人帰国者 ー2年目を終えるにあたってー フフデルゲル 呼和徳力根

「KFC帰国者新長田交流会」を始めて2年近くなりました。ご指導ご協力いただいた神戸の先輩団体、及びボランティアの方々に深くお礼を申し上げます。

この交流会は、中国語の飛びかかっている不思議な空間で、私自身の心地よい居場所にもなっています。帰国者の方々は大変やさしく、思いやりのある方が多くて一緒に時間をすごすのはとても楽しいです。

この交流会では、私は余暇の楽しみをテーマとしました。中国語でのコミュニケーションが自由に行われることと、好きな活動を自由に行えることに拘ってきました。たとえば、卓球が好きなら卓球して頂き、トランプが好きならトランプをして頂き、中国将棋が好きなら中国将棋をして頂きました。それにより、いろんなグループに分かれています、何より、いきいきしているように感じられます。戦争に翻弄され、幸苦を経て生きて来た方々に老後になっても何かを強いることなく楽しく生きて頂きたいに私は思います。「地域に溶け込むように」という建前の華やかな国策により、いろんな地域に分散居住させられた結果、孤独と孤立に追い込まれた中国残留邦人帰国者の方々に、自由に自己表現ができる場を提供することに勤めています。そして、嬉しいことに、このような活動の中で高齢な方でもリズムが自然と身にしみている秧歌（やんこ）踊りの練習場を設けることができました。秧歌踊りは帰国者の方々が養父母の地元でなじんだものです。それは中国と日本の戦争と中国人養父母という特別な歴史背景の中で身につけた芸術です。練習成果の発表の場にと、今は、2013年の神戸祭りに「KFC神戸秧歌隊」として出演の申し込みをしたところです。皆さんはこれにすごく期待を寄せています。自らの歴史を踊りとして表現したいのかもしれないし、何よりこの踊りによってもっと沢山の方と交流ができたという願いとこめられているように思います。これが実現できるように祈っています。



2012年7月28日 秧歌踊りの初舞台

2011年4月12日 第一回目
(交流会の名称を多数決で決める)
(皆も太極拳の先生も緊張気味?!)

KFC 帰国者新長田交流会は
毎週火曜日午後、神戸市
地域人材支援センターで
行っています。



「中国帰国者二世から話を聞く」 一山崎忠さんをお迎えして一

(中国残留日本人兵庫県二世の会 代表)

2012年12月8日、冬の寒波到来の中、帰国者のことをあまり知らない私たちに真摯に自分の人生と二世の問題などを話していただきました。日本語も流暢にお話されますが、正確に伝えたいと中国語の原稿を準備し、中国語でお話になりました。当日はセンターのスタッフが適宜通訳し、さらに中国の歴史事情に詳しい方からの解説もあり、色々とお話の多い会となりました。ここにお話しの要約を紹介いたします。

皆さん、こんにちは。私は山崎です。「中国残留日本人兵庫県二世の会」の代表です。今日は帰国者二世の実情を理解して応援していただけたらと思って話をします。

中国で

1953年生れ、59歳です。92年に来日しました。子供の時は大変な貧困状態で、7,8歳の時は体が弱く、その上1960~62年に中国で大きな自然災害があり(注1)中国全土が飢餓状態、草や木の皮を煮て食べ餓死と隣り合わせの毎日でした。毎日亡くなる子どもや大人がいて非常に悲惨な状況でした。こういう中で私は小学校を卒業し中学に進学しましたが、ちょうどそのとき文化大革命(注2)が始まって、更に厳しい状態になりました。

文化大革命の間は学校で授業は行われず、工場等も停止状態で社会が混乱しました。食料などを得るためには切符(各戸に枚数が決まっている)が必要で、米、魚、肉はもちろん、砂糖や豆腐さえもお金と切符を持って店に行かないといけませんでした。

1968年に父が心臓の病気で亡くなり、一家の経済状態が悪くなりました。切符もない、お金もない大変な状態でした。当時私は15歳で、3歳上の姉と母と3人家族、母は日本人で中国語があまり話せません。3人暮らしで仕事もない、日本人ということですごくいいじめを受ける。文化大革命と父

が亡くなったことで一家は苦しい生活を送っていました。

母が日本人なので、外国への手紙は、検閲を受けてから封をしないと送ってもらえません。心証が悪いのはもちろん、外国(日本)との関係があるため、共産党青年団に入るのも、共産黨員になるにも、審査がとても厳しく、人より何倍も努力しないと認められないという状況でした。

小さい時に一番嫌だったのは、「小日本」ということばを言われた時です。日本人は戦争で中国人に被害を加えた人で、残虐で悪いという代名詞で、「小日本」は明らかに悪口、侮辱のことばです。学校で雪かきの後、雪合戦で遊んでいた時に、「小日本」と言われたので思わずカッとなり、大きいスコップで殴ったら相手の鼻の骨を折ってしまいました。自分の家族にも怒られて、行き場のないつらい思いをしたことを覚えています。

17歳で仕事についてはからは生活は少し改善されました。しかし文化大革命後期で、結婚は26歳になってからという政策があり、早く結婚してしまったら罰金や仕事が無くなるなどの罰則がありました。子どもができて罰金があつて給料も何パーセントかカットされる時代でした。一人っ子政策も始まり、日常生活に制約が多くある中で生活していました。

1972年に日中の国交が回復し、希望の光

がかすかに見えました。当時私は 20 歳、姉が 23 歳。母は日本にいる家族と会えるかもと希望を持ちました。当時 49 歳。でも日本政府が保証人制度(注3)とかの条件を出して、すぐ帰ることはできませんでした。

母の一生は苦勞した一生で、その主な原因は日本の国策の失敗です。外国への侵略戦争は、大変な被害を外国人にも日本人にも与えました。被害国は日本を憎むようになる。特に中国では日本を憎む人を多数生み出しました。中国残留婦人(注4)、中国残留孤児(注4)の問題も日本政府の責任です。

これは政府の起こした過ちなので政府が責任をとり賠償を保証すべきです。多くの人が賠償を受けずに亡くなっています。私の母も先月悔しい気持ちのまま亡くなりました。



二世の会と抱える問題

二世の会の第一の目標は、一世の希望を叶えることです。一世は戦後長い年月が経ち、中年を過ぎてからやっと日本に帰って来ました。今はもう高齢なので病院へ行くとか生活には手助けが必要になりますが、私たち二世で担うようがんばっています。兵庫県の7つの市(西宮、尼崎、神戸、明石、宝塚、川西、伊丹)で二世の支援相談員が活躍しています。

残留婦人の子ども(二世)と残留孤児の年の差は10歳前後、境遇も社会経験も似ています。中国では小日本人と言われて、日本に帰ってきたら中国人と言われる。年齢やことばの問題があり、すべての人が仕事に就くのが難しかったという経験をしています。日本で一番汚いといわれる仕事について、最低の賃金で生活している、そういう生存のみのような状態です。それでも、前向きで一生懸命です。仕事や社会活動等できる範囲で取り組んでいます。

境遇は似ているのに、国の支援は一世のみであり、これは大きな問題です。残留婦人の二世で言語習得年齢を超えて帰国し、日本語ができない人も多い。援助が必要です。でも国の支援は一世のみで二世にはありません。

また年金で生活の見通しがたたないことも問題です。二世は10代半ばから中国で20年間ほど、日本へ帰って20年ほど仕事をしています。十代半ばから60歳まで40年以上働いています。しかし日本政府は中国での仕事の期間は認めないので加入期間が十分ではなく年金がもらえない。もらえても少なすぎて生活ができる金額ではない。これが今、定年になった二世や定年を迎える二世の大きな問題の一つです。

私たちは少数者で日本政府に相手にされていない感じですが、自分たちは団結、努力して、政府と社会に訴えて、この問題に裁判も辞さないつもりで取り組んでいます。以前、残留孤児の問題も当人と支援者が裁判に訴え、この地、神戸で初めて勝訴したという歴史があるので、二世も支援者と協力して解決したいと思っています。

中国にいた時に日本人としていじめられ

て日本にいるときに日本人と認められない、どうして私たちはこういう人生を送らなければならないか。やりきれない、つらい気持ちです。これが二世の現実ですね。

もう少し二世の話をしますが、二世でも国費で帰国した人と私費で帰国した人とがいます。引揚げ証明があるかどうかです。二世の場合、帰国時 20 歳以下だったら、職業訓練の場所、帰国者定住促進センターがあって日本語を勉強して仕事の訓練も保証されていました。しかし 20 歳以上だと支援策は何もありません。日本に着いた直後から自分で住居を見つけ、仕事を見つけ生活していかないといけない。しかも残留婦人が国費帰国するとき、同伴できるのは子ども一人だけです。子どもが何人いても一人だけしか連れて来られないという規定でした。だから、例えば、長男が 21 歳なので中国に残り、次男が 19 歳なので国費帰国する。後に長男が私費で帰国したら、兄弟でも支援対象かどうかが違う。同伴が一人だけというのは、再度家族と引き裂かれる一世の大きな苦しみを政府は理解していなかったと言わざるをえません。

二世で日本語ができない人は多いです。私の姉と同年齢の人はほとんど日本語ができません。私の方がまだ上手です。義理の兄も全然わからない。私費帰国なので国の援助は何もありません。必要な病院の通訳などは二世の会がボランティアでやっています。公的な支援がないのは大変です。

それ以外の問題として、孫の世代は小さいときから日本に住んでいるので、中国語を忘れてきています。親子、祖父母との会話ができません。中国在住の親戚もいます。中国との関係は切れませんから中国語が必

要です。この問題には、日曜日に明石で子どもを対象に中国語教室を開くという形で取り組んでいます。

(日本語通訳 呼和徳力根)

(日本語翻訳協力 斉藤 晋)

《山崎さんの話を聞いて》

1945 年 8 月敗戦時に、満洲地区に多数の開拓民が取り残されていることを、日本政府は知っていたにもかかわらず、国策として移住させたこの人たちの帰国の方策をまったく考えませんでした。

1972 年日中国交回復の際に、日本政府がただちに行動していれば、残留孤児も 30 代前半ぐらいで帰国し、第二の人生を取りもどすことももっと容易だったはずですが。多くの二世が日本語の習得さえできずに苦しんでいる今の状況は避けられたでしょう。国はこの責任を免れることはできないと思います。(交流会コーディネーター 奥 優伽子)

注釈 波線部

(注 1) 大躍進政策の大失敗とソ連との関係悪化、重ねて自然災害により中国国内の食料事情が極端に悪くなった時期。全中国で 2500~4000 万人が餓死したと言われる。

(注 2) 1966 年から 1977 年まで続いた、中国全土で行われた改革運動。出身階級が良いもの(紅五類:労働者・中農以下の農民・兵士・革命幹部・革命烈士)が悪いもの(黒五類:旧地主・旧富豪・反動分子・悪質分子・右派分子)を一方向的に迫害し、弾圧するということが正当化された。市民社会も工場の生産停止、学校の授業停止など全面的混乱に陥った。

(注3) 保証人制度

1981年より日本政府による肉親捜し等の調査が開始されたが、永住帰国に際し(外国人に適用される)「身元保証人」が必要とされた。

(注4) 政府は、敗戦時12歳以下で身元の判明しないものを「中国残留孤児」とし、他は「中国残留婦人等」とした。13歳以上の残留者は女性が圧倒的で、自己の意思で残留したとされ、国としての援護はほとんどなかった。

注釈の出典

ウィキペディア HP

はてなキーワードHP

NPO法人中国帰国者の会HP

若者に伝えたい中国の歴史(明石書店)

生活は厳しかれども
幸せは
いつもあなたのすぐそばに

(山崎 忠)

帰国者を理解するために **KFC蔵書** 貸出はKFC事務局まで。

- 『異国の父母—中国残留孤児を育てた養父母の群像』[浅野 慎一](#)著 岩波新書、2006
- 『日本人として 日本の地で 人間らしく生きるために—兵庫県に暮らす中国残留日本人孤児の人生と闘いの記録』 神戸大学大学院 [浅野慎一・佟岩](#)著
- 『中国残留邦人—置き去られた六十余年』[井出 孫六](#)著 岩波新書、2008
- 『終わりなき旅: 「中国残留孤児」の歴史と現在』[井出 孫六](#)著 岩波書店、2008
- 『中国残留日本人—「棄民」の経過と、帰国後の苦難』[大久保 真紀](#)著 高文研、2006
- 『「中国」残留婦人』を知っていますか』[東 志津](#)著 岩波書店、2011
- 『あの戦争から遠く離れて』[城戸久枝](#) 文藝春秋、2012
- 『中国残留孤児の社会学』[張嵐](#)著 青弓社、2011
- 『中国帰国者三世四世の学校エスノグラフィー』[高橋朋子](#)著 生活書院、2009
- 『開拓民』[宗景 正](#)著 高文研、2012

編集後記

外国人支援に長年携わってきた自分にとって、帰国者の方との出会いは衝撃でした。順番に並んで靴を脱ぎ、揃えてから部屋に上がって来られました。整然とした礼儀正しさや団体としての存在感、そんなところに日本を感じ、もっとこの人たちのことを知りたいと思いました。国策の歪みや国家の都合、養父母の愛、配偶者の理解、生きる強さや明るさなど色々なことを感じています。携わり始めたばかりでまだまだ勉強しないとはいけません。今後ともよろしく願いいたします。(奥 優伽子)